

令和6年度 海外移住と文化の交流センターの管理運営に対する評価票

1. 施設概要

(1)設置目的	海外移住の歴史及び意義の継承、地域に在住する外国人等との交流並びに国際的な芸術の交流を通じて、多様な文化が共生するまちづくりに資することを目的として、平成21年6月に開設。
(2)事業内容	海外移住の歴史及び意義の継承(希望と道への船出の広場:移住ミュージアム機能)、地域に在住する外国人等との交流(多文化と共生の広場:在住外国人支援昨日)並びに国際的な芸術の交流(芸術を活かした創生の広場:国際芸術機能)を通じて、多様な文化が共生するまちづくりに資する施設として運営。
(3)施設内容	かつて「神戸移住センター」として、ブラジルを中心とした南米諸国に多くの移住者を送り出した施設。移住センターとしては昭和46年に廃止したのち、看護学校や在住外国人支援、及び芸術活動の拠点として活用されていた。その後、移住100周年記念事業のとして再整備を行い、平成21年6月3日リニューアル・オープン。

2. 指定管理に関する基本情報

(1)指定管理者名	海外移住と文化の交流センター共同事業体 【代表者】株式会社カワサキライフコーポレーション 【構成員】一般財団法人日伯協会(以下、「日伯協会」) 【構成員】特定非営利活動法人関西ブラジル人コミュニティCBK(以下、「CBK」) 【構成員】特定非営利活動法人芸術と計画会議(以下、「C.A.P.」)
(2)指定期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日まで
(3)選定方法	公募 (応募団体数:1)
(4)R6年度 市支出額(単位:円)	協定締結額50,244,000円 決算額..... 49,130,306円 (差額1,113,694円は修繕費として精算戻入)

3. 令和6年度管理運営の主な実績 ※特に評価の対象とした実績を抜粋

評価項目	令和6年度の主な実績
(1)管理実施状況	
①施設の維持管理業務	・常勤1名を含む5名体制で施設の維持管理業務にあたった。 ・設備の保全や清掃業務は外部に委託し、法令点検や定期点検等を行った。 ・館内外の美観の維持に特に配慮し、館内清掃はもとより、正面広場の芝生整備、植栽など、来館者に好感を与えるための施設整備を積極的に行った。 ・また、施設開所当初に実施した大規模リニューアルから20年弱が経過しており、R6年度において外壁剥離や、屋上防水シート経年劣化による雨漏れの発生など施設の老朽化が目立っておりR7年度に屋上防水、外壁(本館のみ)工事を実施予定。
②施設の運営業務	・開館日数 307日 ・開館時間 午前9時～午後10時(移住ミュージアムは午前10時～午後5時) ・令和6年度の特記事項は以下のとおり。 ■希望と未知への船出の広場(移住ミュージアム) (1)企画展 ・(9/18～12/28開催:2,627人) 「コーヒーがつなぐブラジルと神戸」 (2)常設展(移住ミュージアム) ・R3.8月より日本語・英語・ポルトガル語の3言語の音声ガイド(無料)開始 ■多文化との共生の広場(在住外国人支援) (1)南米系日系人を中心とする在住外国人支援 ・日系人の生活相談支援:1,113件対応 ・日系の子どもたちに対する日本語学習支援教室・母語教室、就学支援 ・成人日系ブラジル人向け日本語教室 ・情報資料室の運営(学習に役立つ書籍収集・活用) (2)交流事業(在住外国人、ブラジル学校・日系人団体、地域住民) ・アルゼンチン祭等の地域住民との交流イベントの実施 ・クリスマス会、日本とブラジルの子どもの絵の交流展の開催 ■芸術を生かした創生の広場(国際芸術交流) (1)オープンスタジオ活動 ・アーティストの制作プロセスを公開する「公開アトリエ事業」を実施 ：アトリエ11室、7,036人 (2)企画展覧会を実施し、国内外のアーティストの作品を展示 ：20回開催、7,960人 ■3つの広場の連携事業 ・市内大学生と連携したYouTube企画 (R3年10月開設、登録者数306名、視聴回数20,286回(R7年6月時点)) ・中南米音楽祭:7月(65人)、10月(70人)、1月(50人)の3回開催、計185名参加 ・ブラジル移民祭:165人 ・フェスタジュニナ(収穫祭):200人 ・神戸のカフェに55(Go Go)!!キャンペーン ・instagramでの発信(R3年4月開設:フォロワー851人 R7年6月時点) ■その他 ・来館者の利便性向上のため飲料自動販売機の設置 ・神戸観光局(R3加入)とともに施設PRを行っている
③自主事業等	■希望と未知への船出の広場(移住ミュージアム) ・日本人を対象としたポルトガル語教室、物販 など ■多文化との共生の広場(在住外国人支援) ・ブラジル・日本の子どもの絵の交流展の開催 ・子どもの音楽交流会等の交流イベント多数実施 ・名古屋ブラジル総領事館による移動領事館開催支援 ■芸術を生かした創生の広場(国際芸術交流) ・1Fスペースのカフェ運営・イベント実施:2,300人 ・アート林間学校、CAP STUDY(芸術を楽しむ講座・ワークショップの実施)

(2)利用状況										
①施設の利用者数	▼ 入館者数（算出方法:出入口に設置しているセンサーにて感知）									
	目標	53,000人	実績	56,317人	達成	要因	R6年度、市とリオデジャネイロ市が姉妹都市締結55周年を記念し、各種イベントを実施し、例年より多様な来館者が増えたため。			
	▼ 貸室利用率（算出方法:各貸館の利用日をセンター全開館日の割合で算出）									
	目標	55%	実績	63%	達成	要因	リピート利用に加え、口コミによる新規団体利用の増			
②各種事業の参加者数	▼ 移住ミュージアム事業（概要:海外移住の歴史や当時の街並みを写真や映像で紹介。移住先で使用した農具などの資料も展示）									
	目標	13,550人	実績	14,880人	達成	要因	55周年記念事業の実施及びJICAとの連携、広報の強化			
	▼ 在住生活支援事業（概要:日系南米人を中心とした在住外国人に対し、相談受付窓口を設置し、生活上の各種相談等を実施）									
	目標	R6実績 608人	実績	1,113人	達成	要因	日常生活に関するお困り事や行政手続等について細やかに実施			
	▼ 企画展（概要:海外を含む全国で活躍するアーティストの作品を展示し、市民に芸術を身近に感じてもらう）									
	目標	R6実績 6,790人	実績	7,960人	達成	要因	55周年記念事業の実施及び公開アトリエ事業との連携			
(3)収支状況										
①使用料収入	目標	380千円	実績	592千円	達成	要因	貸室利用率向上による収入増			
②収支バランス	収入(千円)		51,266	支出(千円)		60,234	収支の差	-8,968	目標	達成
	内訳	指定管理料	47,444	内訳	人件費	25,282	備品費	942	貸館や駐車場使用料は順調に推移している。全体の収支としては、人件費や光熱水費高騰が要因となり、赤字となっているが、令和7年度は事業実施方法や体制の見直しを行うことで改善する見込み。	
		修繕費	1,686		警備費	734	消耗品費	876		
		貸館使用料	592		清掃費	2,638	企画事業費	4,387		
		駐車場使用料	1,064		設備費	1,090	管理費(その他)	1,665		
		活動支援室	480		修繕費	1,686	事務費	3,814		
					光熱水費	6,542	その他	12,264		
	(4)満足度調査の結果等									
①調査概要	調査期間:令和6年4月1日～令和7年3月31日 調査方法:アンケート(紙) 回答者数:762名 設問数:14 主な質問項目:来館目的、来館頻度・回数、感想、スタッフの対応等									
②結果(満足度)	▼ 掲示・展示物の満足度（算出方法:アンケートの集計）									
	目標	R5実績 83%	実績	94%	達成	要因	専門家やアーティストから、直接資料や展示物についての説明を聞くことができた、と訪問者から回答があり高く評価されたものと推察。			
	▼ スタッフ対応の満足度（算出方法:アンケートの集計）									
	目標	R6実績 86%	実績	90%	達成	要因	専門家やアーティストから、直接資料や展示物についての説明を聞くことができた、と訪問者から回答があり高く評価されたものと推察。			
	▼ リピート希望（算出方法:アンケートの集計）									
	目標	R6実績 93%	実績	98%	達成	要因	周年記念イベントで当施設を初めて利用した層に対しても、館内を滞留してもらうスタッフが対応する等、高評価を得られたものと推察。			
③主な意見・苦情、対応	移住ミュージアムに関する意見が多く寄せられ、「職員から直接丁寧に説明してもらえて満足した」、という声や、日系ブラジル人の訪問者が一定数あり、自分のルーツを辿ることができたという声も寄せられている。									

4. 項目別評価

評価項目	5段階評価	評価の理由
(1)管理実施状況	ほぼ提案どおり	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(2)利用状況	提案をやや上回る	仕様で定めた事項を適切に履行し、提案をやや上回る効果があったため。
(3)収支状況	提案をやや下回る	仕様で定めた事項は履行しているが、サービスの質的に期待した水準を満たさなかったため。
(4)満足度調査の結果等	提案をやや上回る	仕様で定めた事項を適切に履行し、提案をやや上回る効果があったため。

5. 総合評価

評価項目	(A)配点	(B)項目別評価の係数換算	評価点 (A×B)	
(1)管理実施状況	40 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	40	
(2)利用状況	30 点	1.2 (提案をやや上回る)	36	
(3)収支状況	20 点	0.8 (提案をやや下回る)	16	
(4)満足度調査の結果等	10 点	1.2 (提案をやや上回る)	12	
※評価点(合計)の総合評価変換 【AAA】150～121点, 【AA】120～101点, 【A】100～81点, 【B】80～61点, 【C】60点			評価点の合計	104 点
			総合評価	AA

令和6年度 神戸市立婦人会館の管理運営に対する評価票

1. 施設概要

(1)設置目的	婦人の文化と教養を高め、婦人の社会的地位の向上を図るため設置(神戸市立婦人会館条例より)
(2)事業内容	・貸会議室運営 ・各種生涯学習講座の実施 ・女性を対象とした、生きがいづくりや地域ボランティア活動、健康等に関する相談事業の実施
(3)施設内容	神戸市立総合福祉センターの4階・5階の一部 事務室、大会議室、音楽室、多目的室、IT研修室、衣服工房、倉庫、保育ルーム

2. 指定管理に関する基本情報

(1)指定管理者名	一般社団法人 神戸市婦人団体協議会
(2)指定期間	令和6年4月1日から令和11年3月31日まで (5年間)
(3)選定方法	公募 (応募団体数: 2)
(4)R6年度 市支出額(単位:円)	協定締結額(当初) 14, 975千円 (決算額) 14, 938千円

3. 令和6年度管理運営の主な実績 ※特に評価の対象とした実績を抜粋

評価項目		令和6年度の主な実績													
(1)管理実施状況															
①施設の維持管理業務		会議室に設置している破損したホワイトボードの更新及び、音楽室のピアノカバー、椅子の更新を行い、施設を快適に利用できるよう整備した。 緊急事態を想定した総合福祉センターの合同消防訓練(2回/年)に参加した。 ※施設の設備保全・清掃・警備業務等は、総合福祉センター指定管理者が実施しているため対象外													
②施設の運営業務		会議室の使用許可及びその使用制限、使用料の徴収・減免等について、神戸市立婦人会館条例並びに同施行規則等の規定に基づき業務を適正に実施した。 職員の応対力向上のため、「障害者の理解と合理的配慮」「視覚障害者の理解と点字体験研修」及び消防訓練を職員研修として実施した。 令和6年度より、時代適合性及び男女共同参画の観点から、性別に基づく減免(女性のみで利用した場合の3割減免)を廃止した。 社会実証として利用率の低い平日夜間の閉館を実施している(令和6年度から2年間)。													
③自主事業等		・生涯学習として、SDGsをテーマとした2講座(①環境問題実行委員会 ②消費者問題実行委員会)や、ITルーム、被服工房等を活用した子供向けプログラミング教室、PC講座、洋裁教室、和裁教室を開催した他、苦手な方向けのスマホを使った確定申告の講座、健康に関するものなど様々な「あじさい講座」を開催した。 ・健康講座及び健康相談の実施													
(2)利用状況															
①施設の利用者数		▼ 貸室利用率 (算出方法: 評価対象期間中の会議室(各貸室)の使用枠(午前・午後)の実績数の合計÷使用枠数の合計×100)													
		目標	貸室利用率 50%	実績	59.6%	達成	要因	昨年度51.1%から、9ポイント増。適切な運営が行われていると推察される。							
		▼ 入館者数 (算出方法: 評価対象期間中の会議室使用許可申請書記載の使用人数の総数)													
		目標	過去平均 48754人	実績	48458 人	達成	要因	夜間閉館実施後にもかかわらず、過去平均数から▲1%の実績数は、施設設備のアンケートの清潔さの満足度が7割を超えていることから、適切に運営されていることが推察される							
②各種事業の参加者数		▼ 各種生涯学習講座の実施事業 (概要: 健康、音楽、洋裁の他救命士講習など、多岐にわたる内容の講座を実施)													
(3)収支状況															
①使用料収入		目標	6259 千円	実績	6286 千円	達成	要因	夜間の閉館を実施したものの、減免対象の見直しを行ったことで、減少要因が最小限に抑えられたと推察される							
②収支バランス		収入		22530 千円		支出		19960 千円		収支の差		2570 千円		目標	達成
		内訳	指定管理料	14975 千円		内訳	人件費	12474 千円		備品費	-		予算の範囲内で事業執行できている		
			その他	7555 千円			警備費	-		消耗品費	67 千円				
							清掃費	-		あじさい講座 事業費	5071 千円				
							設備費	95 千円		その他	1990 千円				
							修繕費	263 千円							
							光熱水費	-							

(4)満足度調査の結果等					
①調査概要	調査期間: 令和7年1月6日～1月31日(計1か月間) 調査方法: 来館者への紙面によるアンケート調査(昨年度のアンケートにおいて、裏面の回答率が低かったため、質問内容を精査し、片面1枚に収め実施した) 回答者数: 抽選会18枚(配布18枚:回収率100%) 通常利用347枚(配布400枚:回収率87%) 設問数: 抽選会参加者14問 通常利用13問 主な質問項目: 利用目的、スタッフ対応、施設の状態、備品について				
②結果(満足度)	▼ スタッフ対応の満足度 (算出方法: 服装及び言葉遣いや丁寧さについての設問で「やや悪い」「悪い」と回答した人の割合)				
	目標	過去平均2.1%	実績	0.6%	達成 要因 詳細結果内訳(職員の対応合計) ①通常利用: とても良い25.8%、良い34.4%、普通25.6%、やや悪い0.4%、悪い0.3%、無回答13.5% (令和5年度: とても良い21.8%、良い32.0%、普通26.2%、やや悪い1.3%、悪い0.3%、無回答18.4%) ②抽選会: とても良い25.9%、良い38.9%、普通33.3%、やや悪い0.0%、悪い0.0%、無回答1.9% (令和5年度: とても良い16.2%、良い17.6%、普通36.8%、やや悪い5.9%、悪い0.0%、無回答23.5%)
	▼ 貸室利用の満足度 (算出方法: 館内表示および備品についての設問で「やや不満」「不満」と回答した人の割合)				
	目標	過去平均1.6%	実績	1.1%	達成 要因 備品について、故障したホワイトボードの入れ替えを行い設備の改善を図っている。
③主な意見・苦情、対応	・「ストッパーが止まらないので危ない」と指摘のあった会議室の机は、処分し、令和7年度から順次入れ替えを行う予定				

4. 項目別評価

評価項目	5段階評価	評価の理由
(1)管理実施状況	ほぼ提案どおり	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(2)利用状況	ほぼ提案どおり	提案値等を達成したため(1倍以上1.2倍未満)
(3)収支状況	提案をやや上回る	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(4)満足度調査の結果等	ほぼ提案どおり	提案値等を達成できなかったため(0.8倍以上1倍未満)。

5. 総合評価

評価項目	(A)配点	(B)項目別評価の係数換算	評価点(A×B)
(1)管理実施状況	30 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	30
(2)利用状況	30 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	30
(3)収支状況	20 点	1.2 (提案をやや上回る)	24
(4)満足度調査の結果等	20 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	20
※評価点(合計)の総合評価変換 【AAA】150～121点, 【AA】120～101点, 【A】100～81点, 【B】80～61点, 【C】60点			評価点の合計 104 点
			総合評価 AA

令和6年度 神戸市立ふたば学舎の管理運営に対する評価票

1. 施設概要

(1)設置目的	旧二葉小学校校舎を転活用し、地域住民が主体となって、神戸市立ふたば学舎条例第1条にある「市民が行う地域活動に一層多くの市民が参加することができるように支援するとともに、地域社会に関連する様々な交流、学び、歴史、文化及びものづくりに市民が触れることができる機会を設け、もって地域の活性化を担う人材の育成に資するとともに、多文化共生を推進する」ための施設。
(2)事業内容	・地域活動の中核となる人材の育成についての支援を行うこと ・地域活動を行う機会及び地域活動への参加の機会を市民に提供すること ・様々な文化との交流の機会を市民に提供すること ・多文化共生の理解を促進すること ・そのほか、設置目的を達成するのに必要な事業
(3)施設内容	旧小学校校舎を転活用しており、教室型の部屋に加え、事務室、会議室、講堂、多目的室、音楽室、調理室等を備えている。また、旧運動場を二葉公園として整備しており、夕方頃になれば近隣の小・中学生でにぎわっている。 施設管理事務室・受付、 会議室 11箇所(1階:2箇所、2階:8箇所、3階:1箇所)、 多目的室 5箇所(1階:2箇所、2階:1箇所、3階:2箇所)、 講堂、調理室、音楽室1、音楽室2、オープンスペース、 駐車場 (19台分、うち1台分は身体障害者用)

2. 指定管理に関する基本情報

(1)指定管理者名	特定非営利活動法人ふたば		
(2)指定期間	令和5年4月1日から令和8年3月31日まで (3年間)		
(3)選定方法	非公募 (非公募事由:地域密着かつ地域人材を活用している施設のため)		
(4)R6年度 市支出額(単位:円)	協定締結額(当初) ￥25,000,000	(決算額) ￥24,973,285	

3. 令和6年度管理運営の主な実績 ※特に評価の対象とした実績を抜粋

評価項目		令和6年度の主な実績				
(1)管理実施状況						
①施設の維持管理業務	施設の設備保全・警備業務等は、期待した水準を十分満たしている。特に清掃や植栽の維持管理については、婦人会や園芸サポーターといった地域のボランティア活用しながら、丁寧に取り組んでいる結果、利用者満足度調査でも、綺麗という意見を占める割合が昨年度よりも上昇している。また、駐車場についてもリニューアルを行い、駐車可能台数が11台から17台に増え、利用者からも好評の声を得ている。このように利用者の意見を踏まえ、改善する姿勢について評価しているところ。					
②施設の運営業務	ふたばZINEフェスやおとなの小学校などの新たな事業にも積極的に取り組んでいるほか、貸室利用者数も順調に伸びている。また、施設内では、震災関連や昔の神戸の街並みなどの展示を行い、利用者へ学びや歴史などに触れる機会を設けるなど工夫しており、所管課として期待する水準を十分満たしており、評価している。所管課としては、指定管理者と連携し、さらなる運営の効率化に向けた支援を引き続き行っていくたい。					
③自主事業等	自主事業として実施している震災体験学習受入事業については、神戸市外の小中学校等の依頼を受け実施しているが、全国各地、そして海外の留学生など、52件6,665人(収入:約13,170千円)の受け入れを行うなど高水準を維持している(R5年度53件6,143人)。これまでの既存事業についても、軌道にのり安定的に参加者を獲得しているが、新たな事業の開拓にも取り組んでおり、例えば農業や配送など産業分野で社会的意義が高まっているドローンに触れるきっかけとして、こどもを対象に「ふたばトイドローン教室」を開催している。トイドローンを気軽に、そしてゲーム感覚で楽しんでもらえる企画として好評であり、ふたば学舎にとどまらず、出前講座なども行い、実施の場を広げている。所管課としては積極的な自主事業の展開について指定管理者の取組を評価しており、引き続き賑わいづくりに向けた支援を行っていくたい。					
(2)利用状況						
①施設の利用者数	▼ 入館者数 (算出方法:貸室を利用した人数を算出)					
目標	R5年度実績 100493人	実績	111299人	達成	要因	昨年度を約1割上回る入館者数となっており、評価できる。ふたば学舎の認知向上、施設利用機会・頻度の低い20～40代をターゲットとした新たなイベント(「おとなの小学校」、コスプレイベント「コスメル」など)を実施することにより、施設を知るきっかけにつながり、その効果が一定現れたと推察される。引き続き、指定管理者の工夫による入館者数の増を期待したい。
▼ 貸室利用率 (算出方法: 令和6年度中の各貸室の1か月単位の部屋コマ総数÷利用件数×100)						
目標	指定管理者の 提案値 49%	実績	49%	達成	要因	指定管理者の提案値に概ね達しており、仕様のとおり適切に運営していることが推察される。夜間も含め、貸室数も多い中、50%に近い利用率は評価できる。
②各種事業の参加者数	▼ 人材育成事業 (概要:地域活動を担う多様な人材の育成・支援を目的とし、受講生が自主的な地域活動実現に向けて、ふたば学舎がノウハウや活動先などを支援)					
目標	1486人	実績	1806人	達成	要因	過去に人材育成事業で支援を受けた卒業生が独立して、多世代交流のイベントを企画し、多数の参加者を呼び込んだ。一部、当初指定管理者から提案を受けていた計画について、事業者との調整の都合により、実施できなかったものもあったが、代替の事業を実施し、参加者を獲得することができた。
▼ 震災体験学習事業 (概要:神戸市内の小・中学校を対象とした体験講座や震災プログラム(防災ワークショップやまちあるき、語り継ぎ等)を実施)						
目標	2715人	実績	3481人	達成	要因	震災学習事業を実施している他の施設にはない避難所設営体験や炊き出し体験など身体を通して体験を可能とする点において差別化を図っていることから、受け入れ数は高水準を維持している。また阪神・淡路大震災から30年を迎えたこともあり、震災の記憶や教訓を伝えるイベントを例年より多く開催したことも参加者数が増加した一因と考えられる。
▼ 地域活性化事業 (概要:まちの魅力を外部に向けて発信し、地域活性化につなげるために、近隣の地域団体等と連携しながらイベント等を実施)						
目標	4300人	実績	4825人	達成	要因	「まちの文化祭」や長田区の全ふれあいのまちづくり協議会と連携して実施している「長田区ふれまちフェスタ」は、どちらも毎年恒例のイベントとなっており、ステージ、屋台販売、ワークショップなど、内容の充実を図っていることから参加者の継続的な獲得に繋がっていると推測される。
▼ 地域文化事業 (概要:神戸の歴史を学ぶ機会、また音楽や落語などに身近に触れる機会を提供する。)						
目標	1040人	実績	1189人	達成	要因	神戸の歴史について、毎回切り口を変えたテーマで連続講座を実施している。講師は元大学講師楠本利夫氏に依頼しているが、時事ネタを含めた話しぶりや写真資料、文献の解説など中身の詰まった内容が好評を得ており、リピーターの歴史ファンだけでなく、新規の受講者も増加していることによる。また、「ふたば寄席」では落語や音楽、マジックを無料で楽しめることから、主に高齢者から人気を集めており、常連の数も一定確保しており、安定した参加者数を維持できている。
▼ 多文化共生事業 (概要:多文化共生への理解促進や多文化交流につながる事業を行う)						
目標	575人	実績	1073人	達成	要因	各国の食材と食文化等の知識を広げることを目的とした多国籍料理教室や外国文化のステージショーや多国籍の屋台が楽しめる「KOBELANTAN緑日」などを実施した。神戸定住外国人支援センターや神戸国際コミュニティセンター、さらに入居テナントであるふたば国際プラザと連携しながら実施していることにより、広報などが効果的に実施できたと思われる。

(3)収支状況										
①利用料金収入 (貸室収入+駐車料金収入)	目標	令和5年度実績 17179千円	実績	17159 千円	達成	要因	昨年度に比べ若干の収入減(約20千円)となっているが、駐車場収入減が要因であり貸室の収入においては、昨年度に比べ増加している。趣味などでの定期利用者においては、今後も引き続き利用してもらえるよう、窓口での丁寧な対応や施設の清掃といった維持管理を適切に努めることにより、利用満足度を高め、さらに、ホームページでの貸室申込・空き状況の表示のほか、フェイスブック、インスタグラム等SNSを活用した事業告知、広報誌「ふたばだより」による貸室利用案内、事業別のチラシの作成など地道に広報にも取り組み、新たな利用者確保につながるよう日々取り組んでいる。			
②収支バランス	収入		37182 千円	支出		38190 千円	収支の差	-1008 千円	目標	達成
	内 訳	指定管理料	23500 千円	内 訳	人件費	12500 千円	備品費	234 千円	光熱水費については、各テナントに面積按分等で負担してもらっているが、テナントの撤退などにより、指定管理者の管理スペースが増えたことに伴い、光熱水費負担も増えていることにより赤字が発生しているが、施設利用者も伸びており、利用料金も安定的に確保できていることから目標としては達成とする。	
		利用料金繰入額	13000 千円		外部委託費	11266 千円	消耗品費	601千円		
		指定管理事業収入	508 千円		賃借費	53 千円	リース料	394 千円		
		寄付金	170 千円		保険料	351千円	事業費	3155 千円		
		その他(利息など)	4 千円		光熱水費	6654 千円	その他	534 千円		
					通信費	518千円	消費税	1930 千円		
(4)満足度調査の結果等										
①調査概要										
調査期間:令和7年1月13日～3月8日(計1か月間半) 調査方法:貸館利用者に直接配布(受付にて調査用紙手渡し、鍵返却時回収) 回答者数:配布数:1,400枚 回収数:1,118枚 回収率:79.85%(QRコードを活用したアンケートも同時実施したが数としては少数) 設問数:11問 主な質問項目:利用満足度、職員の対応、施設の清掃状況										
②結果(満足度)										
▼ 施設利用の満足度 (算出方法:「施設を利用した満足度はどうだったか?」という質問に「良い」・「まあ良い」と回答した人の割合)										
目標	令和5年度実績 81.5%	実績	82%	達成	要因	ふたば学舎特有の建物のレトロ感を利用者からも多く好評を得ており、それに加えて、スタッフの対応、施設の清潔さ、実施事業の内容などが相まって、総合的な満足度に繋がっていると考えられる。				
▼ 職員対応の満足度 (算出方法:「職員の対応(態度、サービス等)はどうだったか?」という質問に「良い」・「まあ良い」と回答した人の割合)										
目標	令和5年度実績 62%	実績	62%	達成	要因	窓口スタッフは施設の「顔」であるという意識をスタッフ自身が自覚し、窓口対応や電話対応、クレーム対応など問題点についてはスタッフ内で共有し、改善を図ることにより、一定の水準で安定的に対応することができていると推察される。				
▼ 施設の清掃状況の満足度 (算出方法:「施設の清掃状況はどうだったか?」という質問に「きれい」・「まあまあきれい」と回答した人の割合)										
目標	令和5年度実績 81.8%	実績	84%	達成	要因	「ゴミが落ちておらずトイレもきれい」といった好意的な声が多く、地域の清掃ボランティアや外部委託先(地元B型就労支援事業所)による日々の丁寧な清掃、また清掃ボランティアの意見を反映しながら適宜、清掃のチェック表の見直しを行っていることによる効果が出ているものと思われる。				
▼ ふたば学舎の情報をどこで得ているか (算出方法:HP、SNSと回答した人の割合)										
目標	令和5年度実績 13.5% (HP:11.7%、SNS:1.8%)	実績	12% (HP:9.6%、SNS:2.4%)	達成	要因	「来館して直接」が24.2%と最多、「ふたばだより」が18.4%、「友人、知人」が17.7%と未だ紙媒体や口コミが占める割合が多い。以前よりHPやインスタグラムなどWEB・SNSによる広報・発信にも力を入れているが、利用者の年齢層(60歳以上が56.1%)が高いこともあり、このような結果になっているものと思われる。紙媒体での広報にも引き続き力を入れつつも、若年層の獲得増のためにもより頻度の高い情報更新や見せ方の工夫を心がけていく。				
③主な意見・苦情、対応										
・鏡を増やしてほしいという要望に対して、姿見を追加した。 ・ロッカーの充実を求める要望に対し、新たに大型ロッカーを増設した。 ・以前から、駐車場の駐車可能台数を増やしてほしいという意見があったが、フルリニューールを行い、駐車可能台数が11台から17台と増加した。										

4. 項目別評価

評価項目	5段階評価	評価の理由
(1)管理実施状況	ほぼ提案どおり	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(2)利用状況	ほぼ提案どおり	提案値等を達成したため(1倍以上1.2倍未満)
(3)収支状況	ほぼ提案どおり	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(4)満足度調査の結果等	ほぼ提案どおり	提案値等を達成したため(1倍以上1.2倍未満)

5. 総合評価

評価項目	(A)配点	(B)項目別評価の係数換算	評価点(A×B)
(1)管理実施状況	25 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	25
(2)利用状況	25 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	25
(3)収支状況	25 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	25
(4)満足度調査の結果等	25 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	25
評価点の合計			100 点
総合評価			A

※評価点(合計)の総合評価変換
【AAA】150～121点、【AA】120～101点、【A】100～81点、【B】80～61点、【C】60点

令和6年度 神戸市立丸山コミュニティ・センターの管理運営に対する評価票

1. 施設概要

(1)設置目的	神戸市立丸山コミュニティセンター条例第1条に定めるように、市民の福祉の増進及び文化の向上をめざし、市民の連帯によるコミュニティの創造を図るための施設
(2)事業内容	・地域住民及びその組織する団体の親睦・融和を図り、人間性ゆたかなコミュニティを創造すること。 ・教養文化の向上及び地域福祉の増進に関すること。 ・前2つに掲げる催しにコミュニティ・センターの施設(以下「施設」という。)を利用させること。 ・諸会合のために施設を利用させること。 ・前に掲げるもののほか、条例第1条の目的を達成するために必要と認められる事項に関すること。
(3)施設内容	1階:ロビー(多目的ホール)、講習室1、講習室2、講習室3、小会議室 2階:大ホール、料理教室、講習室4、小会議室

2. 指定管理に関する基本情報

(1)指定管理者名	丸山コミュニティ・センター管理運営協議会
(2)指定期間	令和5年4月1日から令10年3月31日まで (5年間)
(3)選定方法	非公募 (非公募事由:地域に密着した施設で地域人材を活用するため)
(4)R6年度 市支出額(単位:円)	協定締結額(当初) 11,370,210円 (決算額) 当初額と同額

3. 令和6年度管理運営の主な実績 ※特に評価の対象とした実績を抜粋

評価項目	令和6年度の主な実績				
(1)管理実施状況					
①施設の維持管理業務	・建物維持管理(施設の開錠・施錠、用具・機器等の点検、小修繕、法定点検) ・環境維持管理(施設・敷地内の清掃、植栽管理など)				
②施設の運営業務	・施設の使用許可、使用料の徴収・管理・納付(当施設は使用料制を採用)				
③自主事業等	・毎週第4日曜日は「こどもひろば」として子ども向けのイベントを開催しており、大ホール、講習室等を中心に、ビンゴ大会やマジックショーなど、月替わりの多種多様なゲームを企画し、親子連れを含め1回につき平均50～60人が参加し大変にぎわっている。 ・令和6年度より、こどもひろば開催時の昼食時間に、雲雀丘中学校の生徒が調理した料理を振る舞う「ヒバ食堂」を開設した。具材の一部にはセンターの空き地を活用した畑「ひ畑」で栽培した野菜が活用されている。 ・ロビーに若者向けのインスタ映えスポットを設置するなど、子どもの居場所づくりに力を入れ、ロビーを利用する子どもの数が令和5年度より5,194人増加した。たくさんの小中学生がセンターのロビーで宿題や交流を行うなど、子どもたちの憩いの場として定着している。 ・令和6年度には地域住民間や多世代の交流を促進するため、センター全館を開放した丸山夏まつり、春秋2回のジャズコンサート、年2回のカラオケ大会、「防災の日」記念の神戸市消防音楽隊演奏会、阪神・淡路大震災30年で「教訓を未来につなぐ集い」、小中学生の主張大会、丸山ひばり小学校と連携したプログラミング教室、雲雀丘中学校吹奏楽部による演奏会などたくさんのイベントを開催し、大盛況であった。 ・また、若年層向けにInstagramでの広報活動にも力を入れており、センターのリアルな活動状況を数日間隔で投稿している。フォロワーは令和7年7月現在552人、投稿の数は479投稿になり、アンケート調査の中でInstagramを見て貸室を申し込んだり、イベントに参加している人が見受けられるようになったほか、ヒップホップダンスなどの部活動(コベカツ)の場としての活用も始めたところ。 ○その他、地域住民等による民謡、ダンス、囲碁、卓球、生け花等のサークル活動を実施 ○指定避難所としての防災備蓄物資、並びに福祉避難所用備蓄物資を保管 ○災害時の緊急避難場所・避難所として活用				
(2)利用状況					
①施設の利用者数	▼ 入館者数 (算出方法:施設のロビーと各部屋に入室した人数でカウント。再入場も別途1カウント)				
	目標	30,000人	実績	50,176人	達成 要因 丸山夏まつりや春秋2回のカラオケ大会、防災の日記念の神戸市消防音楽隊演奏会、地元の小中学生主張大会、年2回のジャズコンサート等のイベントの開催が影響していると考えられる。また、年間を通じてロビーを開放した子どもの居場所づくりにより、放課後の子どもの憩いの場となっていることも要因と考える。
	▼ 貸室利用率 (算出方法:部屋数×利用日数/部屋数×開館日数)				
	目標	45%	実績	50.3%	達成 要因 地域イベントや自主事業での講座の開催を通じて、施設の活用機会を増やしたことが、継続的な利用につながったと考えられる。これらの取り組みにより、センターが多世代にわたる地域の交流拠点として定着し、目標を上回る成果を達成することができた。
②各種事業の参加者数	▼ コミセムルーム事業 (概要:年間を通じてロビーを開放し、地域の子どものための居場所づくりを行っている)				
	目標	令和5年度実績 2,482人	実績	7,676人	達成 要因 下記の子どもひろば事業を毎月実施することにより、参加した子どもたちがセンターを利用するハードルが低くなり、放課後の居場所として定着したことが要因と考えられる。また、スタッフを含め、センター全体が開放的であり、地域の子どものための居場所に入りやすく、居心地が良い雰囲気が醸成されていることも要因と考えられる。
	▼ 子どもひろば事業 (概要:毎月第4日曜日に開催。月ごとにゲームの出し物を行うイベント)				
	目標	令和5年度実績 35人/回	実績	59人/回	達成 要因 ビンゴ大会やマジックショー、巨大迷路など、月替わりでゲーム内容を変更したことにより、参加者に新鮮さと期待感を提供できた点が大きいと考えられる。毎月定期的に開催することで、地域住民間でイベントの存在が定着し、子ども同士で誘い合って参加してもらうことができた。

(3)収支状況																																												
①使用料収入	目標	過去5年平均 1647千円	実績	1548 千円	未達成	要因	地域の高齢化の影響により、貸館を希望する団体、クラブなどが減少したことが要因の一つと考えられる。一方で減免となる丸山コミュニティセンターの事業としての使用は増えている。																																					
②収支バランス	収入		12242 千円		支出		11492 千円	収支の差	750 千円	目標	達成																																	
	内 訳	指定管理料	11371 千円		内 訳	人件費	6198 千円	手数料	7 千円	管理当番のシフトを工夫した結果、人件費をおさえられたことが収支プラスの要因と考えられる。																																		
		光熱費支援	394 千円			使用料	228 千円	消耗品費	366 千円																																			
		前期繰越金	477 千円			衛生管理費	48 千円	委託費	1501 千円																																			
						通信費	213 千円	公租公課	9 千円																																			
						修繕費	674 千円	光熱費支援返還	394 千円																																			
						光熱水費	1847 千円	その他	7 千円																																			
(4)満足度調査の結果等																																												
①調査概要		調査期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日(計12か月間) 調査方法: 施設利用者、イベント、講座、クラブ活動者の参加者、居場所として利用する小中学生等を対象に、アンケート用紙を配布し、回答 回答者数: 792人(配布枚数: 1,086人 回答枚数: 792人) 設問数: 11問 主な質問項目: センター利用者の情報、利用頻度、来館目的、満足度、スタッフの対応、清掃状況、知った理由、意見要望																																										
②結果(満足度)		▼ センター利用の満足度 (算出方法: 「施設の利用にご満足いただけましたか」という質問に「大変満足」「満足」と回答した人の割合) <table><tr><td>目標</td><td>過去5年平均 約85%</td><td>実績</td><td>約86%</td><td>達成</td><td>要因</td><td colspan="5">過去5年の平均から見ても、満足度は85%を超えている。今年度も例年通りの実績であり、高水準の満足度を維持している。</td></tr></table> ▼ スタッフ対応の満足度 (算出方法: 「スタッフの対応(態度、サービス等)はいかがでしたか」という質問に「良い」「まあ良い」と回答した人の割合) <table><tr><td>目標</td><td>過去5年平均 約89%</td><td>実績</td><td>約89%</td><td>達成</td><td>要因</td><td colspan="5">センター利用の満足度と同じく、過去5年の平均は89%であり、高水準を維持している。</td></tr></table> ▼ 施設の清掃状況の満足度 (算出方法: 「施設の清掃状況、清潔さはいかがでしたか」という質問に「良い」「まあきれい」と回答した人の割合) <table><tr><td>目標</td><td>過去5年平均 約89%</td><td>実績</td><td>約92%</td><td>達成</td><td>要因</td><td colspan="5">過去5年平均に比べ、今年度は+3%であった。清掃当番を決め、毎日欠かさず掃除をしていることから、下記の意見でもあるように、館内はトイレを含め、清潔に保たれていることが推察される。</td></tr></table>										目標	過去5年平均 約85%	実績	約86%	達成	要因	過去5年の平均から見ても、満足度は85%を超えている。今年度も例年通りの実績であり、高水準の満足度を維持している。					目標	過去5年平均 約89%	実績	約89%	達成	要因	センター利用の満足度と同じく、過去5年の平均は89%であり、高水準を維持している。					目標	過去5年平均 約89%	実績	約92%	達成	要因	過去5年平均に比べ、今年度は+3%であった。清掃当番を決め、毎日欠かさず掃除をしていることから、下記の意見でもあるように、館内はトイレを含め、清潔に保たれていることが推察される。				
目標	過去5年平均 約85%	実績	約86%	達成	要因	過去5年の平均から見ても、満足度は85%を超えている。今年度も例年通りの実績であり、高水準の満足度を維持している。																																						
目標	過去5年平均 約89%	実績	約89%	達成	要因	センター利用の満足度と同じく、過去5年の平均は89%であり、高水準を維持している。																																						
目標	過去5年平均 約89%	実績	約92%	達成	要因	過去5年平均に比べ、今年度は+3%であった。清掃当番を決め、毎日欠かさず掃除をしていることから、下記の意見でもあるように、館内はトイレを含め、清潔に保たれていることが推察される。																																						
③主な意見・苦情、対応		・丸山コミュニティ・センターは楽しい施設になった。ジャズコンサートやカラオケなどのイベントが増えだし、バザー、新鮮野菜の販売、子どもたちの居場所、子どもひろばの開催などがあって素晴らしい。 ・丸山コミュニティ・センターは憩いの場所、オアシス、高齢者の楽しみの場所である。 ・子どもたちを利用させていただき感謝している。 ・気軽に立ち寄れるのでうれしい。 ・丸山地域を盛り立てるため、種々の活動を企画され、会館の整備にも努力されて感謝している。 ・いつもスタッフの対応がよい。 ・いつもきれいに掃除されており、気持ちよく使える。 ・小中学生による「主張大会」は毎回参加しているが、長田区内でも先進的な取り組みだと思う。 ・新鮮野菜販売やバザーなどが定期的にあるので毎回楽しみ。 ・施設の管理、行事の運営等素晴らしい。感謝の一言である。																																										

4. 項目別評価

評価項目	5段階評価	評価の理由
(1)管理実施状況	提案を大幅に上回る	仕様で定めていない事項を自主的に実施し、施設の設置目的に合致する大きな効果があったため。
(2)利用状況	提案を大幅に上回る	仕様で定めた事項を適切に履行し、提案を大幅に上回る効果があったため。
(3)収支状況	ほぼ提案どおり	仕様で定めた事項を適切に履行し、サービスの質的にも期待した水準であったため。
(4)満足度調査の結果等	提案をやや上回る	仕様で定めた事項を適切に履行し、提案をやや上回る効果があったため。

5. 総合評価

評価項目	(A)配点	(B)項目別評価の係数換算	評価点(A×B)
(1)管理実施状況	25 点	1.5 (提案を大幅に上回る)	37.5
(2)利用状況	25 点	1.5 (提案を大幅に上回る)	37.5
(3)収支状況	25 点	1.0 (ほぼ提案どおり)	25
(4)満足度調査の結果等	25 点	1.2 (提案をやや上回る)	30
評価点の合計			130 点
総合評価			AAA

※評価点(合計)の総合評価変換
【AAA】150～121点、【AA】120～101点、【A】100～81点、【B】80～61点、【C】60点

令和6年度 神戸市立地域福祉センターの管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	各地域で地域住民が自主的に結成しているふれあいのまちづくり協議会は地域福祉の向上をめざすため、福祉・交流活動を中心とした様々な「ふれあいのまちづくり」事業を展開している。 地域福祉センターは、その活動拠点として、児童や高齢者、障害者や健常者など地域住民をはじめすべての人が地域の福祉活動や交流活動などを行うために利用できる施設で、概ね小学校区に1か所整備している。(令和7年7月現在、163小学校区に対して、市立189箇所整備済) 施設は、地域活動コーナーや会議室、調理コーナー、談話コーナー等の機能を備えており、延床面積は約250㎡を標準としている。令和3年度には、利用者向けに公衆無線LAN(Wi-Fi)を整備した。
(2)指定管理者	ふれあいのまちづくり協議会 188団体(1団体【箕谷】が2施設管理)
(3)指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
(4)R6市支出額(単位:円)	協定締結額 317,187千円 決算額 312,999千円

2. 管理運営に対する履行確認内容

・指定管理者である各ふれあいのまちづくり協議会は、自治会・婦人会・民生委員児童委員協議会・青少年育成協議会・老人クラブ等、校区内の主な地域団体を中心に構成されており、地域福祉センターを拠点として、福祉活動・交流活動を中心に、ボランティアベースで環境・防災・子育て支援など地域の実情に即した幅広い活動(ふれあい喫茶、子育てサークル、健康体操、一人暮らし高齢者料理教室など)を実施。また、施設維持業務においては、主に清掃や備品管理、利用申込の受付、利用調整、軽微な補修等を行っている。 ・地域福祉センターはふれあいのまちづくり事業など地域活動のみならず、各種地域団体の会合や住民のサークル活動など住民の交流活動にも活用。 ・全体としては、概ね適正に管理運営されていると考えているが、一方では、市民に対する認知度が十分でなかったり、指定管理者含め地域活動の担い手不足や高齢化、センター利用者の固定化などの課題も顕在化している。 ・こうした課題に対し、市では令和4年度に有識者会議(地域福祉センターに関する検討委員会)をたちあげて議論し、その最終報告書の内容を踏まえ、各ふれあいのまちづくり協議会の意見も聞きながら、令和6年9月に「地域福祉センターの新たな役割などを示す基本方針」を策定した。「地域活動の促進・地域社会の課題解決に寄与する施設」へと新たに位置付け、多世代交流の場や地域社会・地域コミュニティの活性化の場として、全世代が気軽に利用できる施設としていくため、令和8年度より利用可能時間の統一や利用料金制の導入などを行っていく。 ・利活用促進の観点からは、インターネットやスマートフォンにより、利用予約、空き状況の確認、無人管理ができるよう、民間企業(スペースマーケット社)の協力を得て予約管理システムと連携したスマートロックの導入に向けた実証実験を実施中(中道地域福祉センターでは先行して、令和5年1月～予約システムを導入、令和5年9月～予約システムと連携したスマートロックを導入)。順次、希望するセンターにおいて予約システムとスマートロックの導入を促進している(令和7年7月時点で、43施設が導入済みまたは調整中)。 ・また、区地域協働課とも連携し、令和4年度からは多世代交流事業(例えば、小学生向けのプログラミング教室の開催、ICT技術を活用した無人管理の検討、自習スペースの開放や学習支援をはじめとしたこども向け事業、ボランティアに関心のある大学生との連携など)をモデル的に実施している(R4年度実績累計59施設、82事業)。令和5年度においても、人気のあった親子向けプログラミング教室などのほか、YouTuber体験教室などの目新しい事業も取り入れた(累計69施設、107事業)。令和6年度も企業(パナソニック)と連携したパンづくりの企画(ヒラクパン@魚崎地域福祉センター)など新たな事業の掘り起こしにも取り組んだほか、生成AIを活用したイラスト作成教室など、絶えず新たな内容を提案するなどして、事業の活性化にも努めている(累計58施設85事業)。その結果、多世代交流や新たな利用者層の確保にも繋がっている。 ・令和6年度の利用者数については、1,430,588人(R5:1,335,030人、R4:1,156,374人、R3:828,377人、R2:628,841人、R元:1,500,794人)であり、上記のような利活用促進の取り組みを進めていることもあり、コロナ禍以降、回復している。

3. 利用者の満足度調査等

	6年度の状況
①満足度調査の実施内容	調査方法:施設利用者に直接配布。 調査期間:令和6年7月15日～令和6年12月28日 実施数 :市立地域福祉センター189箇所 回収数 :10,756枚

②満足度調査の結果	・R6年度の利用回数 初めて:5.0%、定期的(週1回や月1回等):81.8%、行事がなくても立ち寄る:9.1%、未記入:4.1%、 (R5年度… 初めて:5.4%、定期的(週1回や月1回等):82.4%、行事がなくても立ち寄る:7.8%、未記入:4.4%) ・スタッフ対応 満足:93.8%、不満:1.4%、未記入:4.8% (R5年度…満足:92.2%、不満:1.1%、未記入:6.7%) ・行事内容 満足94.7%、不満1.3%、未記入:3.9% (R5年度…満足91.6%、不満0.9%、未記入:7.4%)
③利用者からの主な苦情、意見とそれへの対応	・ふれあいのまちづくり協議会が実施する地域のための取り組みとして地域福祉センターではふれあい喫茶や体操教室、コーラスなど日々様々なイベントが実施されており、「楽しい」「元気になる」といった声や「スタッフの親切な対応が嬉しい」「安心できる地域の居場所となっている」といった声など、地域福祉センターとしての意義を感じる肯定的な意見や感想がほとんどであった。 ・施設がいつも綺麗に掃除されているという声も多く、利用者が気持ち良く利用できるよう、日々適切な施設維持に取り組んでいることがうかがえる。 ・ハード面については、エレベーター設置に関する要望や施設の老朽化を指摘する声なども一部あるが、緊急性の高いものから実施するなど、施設の状況を見ながら日々対応をしてきているところである。建物によって物理的な制限もあるが、公の施設として安心、安全に利用者にご利用いただけるように、施設の維持管理のみならず利便性向上のための取り組みも進めていきたい。 ・一方、課題としてはボランティアの高齢化による負担を懸念する声が見受けられた。また、施設開館時間や施設利用にかかる料金、予約方法が施設によって異なるため、分かりづらいといった声や、参加者の固定化からもっと幅広い年代の人が集まることのできる施設になることを望む声が多くあった。 ・上述のとおり、令和6年9月に策定した「地域福祉センターの新たな役割などを示す基本方針」に基づき、令和8年度より「地域交流センター」へと名称を変え、利用可能時間の統一や日曜日の開館、利用料金制の導入などにより、全世代が気軽に利用できる施設を目指していく。また、予約管理システムやスマートロックの導入など、利用者の利便性向上と指定管理者の負担軽減につながる取り組みについても推進し、市は引き続き指定管理者をサポートしていきたい。

4. 選定評価委員会のコメント

地域福祉センターの指定管理者であるふれあいのまちづくり協議会はこれまで長年、住民自治の観点から重要な役割を果たしてきており、これまでの努力は多いに評価すべきものである。しかし、市からの説明にもあったように、近年は担い手不足、施設利用者の固定化などの課題も顕著となってきた。そのような状況を踏まえ、市として施設の利活用促進や管理運営の負担軽減を図るべく、施設名称の変更や、利用可能時間の拡大、一部施設における指定管理者の公募、予約管理システム・電子錠の導入促進などの新たな取り組みを進めようとしているとの説明があった。これらの取り組みに関しては賛同するが、指定管理者にとっては大きな変化となり、負担も一定生じうると考えるため、市には指定管理者の頑張りを後押しできるよう、丁寧にサポートしてほしい。